

授業科目	保育内容 環境				実務家教員担当科目	○					
単位	1.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	上村 眞生										
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育としての実務経験を踏まえ、保育所における環境を通じた保育の展開について講義を行い、アクティブラーニングを通して実践ができるようになる。 ・ 乳幼児の「環境」について理解すると共に、5領域の他の領域との関連から見た「環境」について理解する ・ 保育者の「環境」に係わる知識・技能の獲得は勿論、乳幼児の「環境」についての知識を習得する ・ 保育の環境構成ができる 										
授業形態	講義	授業方法	フィールドワーク プレゼンテーション								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の「環境」に係わる知識・技能の獲得は勿論、乳幼児の「環境」についての知識を習得し、自分の言葉で説明できる ・ 「環境」にねらいをおいた保育が展開できる 										
理想的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の「環境」に係わる知識・技能の獲得は勿論、乳幼児の「環境」についての知識を習得し、専門用語を交えて説明できる ・ 「環境」にねらいをおいた保育について、適切な教材選択・作成を行い、保育の展開ができる 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験											
小テスト											
レポート	10%										
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物	50%										
その他	40%										
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	WE21617J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
分担表の作成 栽培計画の作成 プレゼンテーションの準備										1	
授業計画											
第1回	オリエンテーション 授業の進行方法・評価方法について説明する										
第2回	領域「環境」 5領域の中での「環境」の位置づけについて解説する										

第3回	身近な環境1 保育の中で関わる環境のうち、動物について紹介し、関わり方を考える
第4回	身近な環境2 保育の中で関わる環境のうち、植物について紹介し、関わり方を考える
第5回	身近な環境3 保育の中で関わる環境のうち、地域・社会について紹介し、関わり方を考える
第6回	身近な環境の体験1 栽培体験・自然観察体験・地域探索を通して、保育に関係する身近な環境について知る
第7回	身近な環境の体験2 栽培体験・自然観察体験・地域探索を通して、保育に関係する身近な環境について知る
第8回	身近な環境の体験3 栽培体験・自然観察体験・地域探索を通して、保育に関係する身近な環境について知る
第9回	人的環境としての保育者 保育者の「人的環境」としての在り様について解説し、その重要性を知る
第10回	保育実践と保育内容環境【Aグループ】 保育実践の中での領域「環境」の位置づけについて解説し、保育計画の立案、模擬演習を行う。他のグループは子ども役として参加し、評価を行う。
第11回	保育実践と保育内容環境【Bグループ】 保育実践の中での領域「環境」の位置づけについて解説し、保育計画の立案、模擬演習を行う。他のグループは子ども役として参加し、評価を行う。
第12回	保育実践と保育内容環境【Cグループ】 保育実践の中での領域「環境」の位置づけについて解説し、保育計画の立案、模擬演習を行う。他のグループは子ども役として参加し、評価を行う。
第13回	身近な環境の体験4 栽培体験・自然観察体験・地域探索を通して、保育に関係する身近な環境について知る
第14回	身近な環境の体験5 栽培体験・自然観察体験・地域探索を通して、保育に関係する身近な環境について知る
第15回	まとめ 保育内容「環境」について、半期間の内容を振り返り、体系的知識として整理する
テキスト	特になし
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業の中で適宜指示する

<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>各課題への評価コメントを提示する</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>身近な生活環境(自然・社会・地域等)に関心を持ち、名称や事象についての知識を得ておくこと と、積極的に関わろうとする態度が必要 常に「考える」ことを重視し授業を展開するので、自身の考えを持つこと、その考えを他者に客観的に説明することを習慣化しておくこと</p>